

# もうすぐ完成！ 印西市の総合体育館

また一つ、市の大きな財産が増えました。みんなが待ち望んでいた総合体育館が、3月に完成予定です。

## ほっとレポート

広報レポーター：吉川 映子（高花）

です。今回は、そんな完成間近の体育館を見学させていただきました。レポーターします。

取材当日は大雪に入った寒い日でしたが、くつきりと晴れた青空を背景に、堂々とそびえ立つ姿は素晴らしいものでした。

わたしは、松山下公園内のテニスコートで友達とテニスをして、ずっと建設の様子を見てきました。工事では大きなクレーンが使われていて、冗談で「倒れてこないかしら」なんて友達と大笑いしたこともありましたが、それだけの威容を持った建物です。市職員と建設を請け負った(株)竹中工務店のみなさんの案内で中に入ると、まず50畳を越えるフロアが二つ並ぶ「武

道場」がありました。部屋の中央に可動式の間仕切りがあり「広いなあ」と感嘆しました。ここは普段はフローリングの床ですが、柔道で使う



▲メインアリーナの内部。中央にあるのが国体でも使用されるクライミングウォールです



▶3月に完成を控える「印西市総合体育館」の外観

時は畳が敷ける多機能な部屋でした。天井が斜めになってるので、理由を聞いてみると「天井を高く見せて、できるだけ解放感を持たせているんです」ということでした。この傾斜は屋上に反映されていて、屋上に設置されたベン

チに腰掛けて、景色を楽しめるようになっていきます。

トレーニングルームは中庭に面していて、ガラス張りの大きな部屋でした。まだ器具は整備されていませんでしたが、すべて備わったら…と想像。その対面にある「多目的室」は壁の一方が鏡張りの部屋です。エアロバイクには最適です。建物中央を貫くプロムナードギャラリーの先：屋外には、まだ整備中の「祭りの広場」があります。芝生が広がる心地よい空間になりました。

さて、この体育館の一番の見所は「メインアリーナ」「サブアリーナ」です。「メインアリーナ」はバスケットボールのコートが2面。周囲には観客席があり、車いす席も備わっていて、行き届いたものでした。正面には今年開催の「ちば国体」で、山岳競技に使われる、高さ15mのクライミングウォールがあります。

「サブアリーナ」にはバスケットボールのコートが1面、バレーボールのものが2面あり、2階観客席からアリーナが一望できます。また、市内で最初の弓道場も整備されています。この弓道場は6人が一度に矢を放つことができます。弓道に興味を持った子どもたちが集まるとうれしいな」と期待しています。

屋上からの景観も抜群でした。テニスコート、野球場、陸上競技場、そして自然に囲まれていて、その中心にこの体育館があり、申し分ない環境です。取材当日は、筑波山もくつきりと見えました。

### リサイクル情報広場

- 掲載情報は平成22年2月1日現在  
 国土生活環境課クリーン推進班 ☎内線 363
- ◆ゆづりませ情報（有料の物は希望価格）  
 ▲背広上下(ダークグレー・要相談) ▲エレクトーン(要相談) ▲スノーボードとブーツ(2組・それぞれ3千円) ▲柏日体大高校セーターとベスト(要相談) ▲ノートパソコン(2万4千円) ▲冷凍冷蔵庫(要相談) ▲印西中学校女子制服スカート(夏・冬用・無料) ▲木製二つ折りタイプすのこベット(7千円) ▲印西しおん幼稚園体操服上下(夏・冬、要相談) ▲ベビーバス ▲ベビーベッド。
- ◆さがしています情報  
 ▲全自動麻雀卓 ▲印幡高校女子制服 ▲ノートパソコン ▲県立我孫子高校指定セーター ▲麻雀卓 ▲印西しおん幼稚園男子制服(115cm) ▲電子ピアノ ▲幼児用自転車 ▲きかり幼稚園制服、体操服など ▲木刈中学校男子制服(160cm) ▲千葉英和高校制服・体操服一式(180cm)。

※詳しくは市ホームページをご覧ください

毎月5日は「ノーレジ袋デー」です。お買い物にはマイバックを持参しましょう。



広報レポーター：竹中 あゆみ（原山）

今日もこの駅を、2万人以上の方が利用しています。この駅について、今回、ある鉄道会社にお勤めの福村さんと野坂さんからお話を伺いました。

当時の写真からは全く想像ができませんが、駅ができた当時、周辺一帯は見渡す限り原っぱで本当に何もなかったそうです。

「開通当初は見物人であふれかえり、にぎわいを見せていましたが、その波も収まると、駅利用者顔なじみになるくらい穏やかな駅だったよ」と開業当時、この駅で働いていた野坂さんは懐かしそうに教えてくれました。

また、昔は切符を改札鉄で切っていましたが「はさみの刃がさびないよう時々動かしたり、線路の分岐ポイントでは、油切れしないように駅員自ら油を注しに行ったりしていた」という、今となっては意外なエピソードも。

そんな駅周辺も、次第に多くの方が住み始め、企業や商業施設なども充実し、都心に一本で行けるなど、今では多くの住民にとってなくてはならない交通手段です。

昭和59年、この駅は住宅・都市整備公団（現・都市再生機構）によって建てられ「町のシンボルになるように」と作られました。住宅開発を手掛ける同公団が設計していたので、完成した駅舎の宿直室は居心地がよく「まるで一軒家ようだ」と感じたそうです。

駅構内は広く、イベント開催時にはイベントスペースとして使用され、また平成3年からは展示スペースなどもでき、終日多くの人に利用されています。

今年7月にさらなる飛躍が見られるこの鉄道。イメージカラーはピピットブルー。さあ、もうどの駅がお分かりになりましたか。

### 《1月15日号の解答》



▲答えは「大森四つ角」。左写真の右側にある飲食店「角藤」が目印でしたが、昨年閉店に。この道を直進するとJR木下駅に着きます(右写真は現在の大森四つ角)。

### 文芸コーナー

**短歌**

若草山の眼下に広がる夜景見ゆきらめく灯火細波のごと  
 大森 安孫子正子

冬空に葉を落としたるゆりの木の梢仰げば蒞果するどし  
 原山 小川 正子

貫ひたる丸き聖護院大根の切り方迷ふ歳晩の午後  
 内野 岡田 恒子

新型のインフルエンザの対応に追はれて速しこの年過ぐる  
 小林 品村 葉子

水面を切り裂くがごと白鳥は水を張る田につぎつぎ降りる  
 木刈 山本 清子

**俳句**

憂きことは神に預けて屠蘇祝ふ  
 小林 浅間 榎本 聖彦

初富士と言ふ気高さは遠目にも  
 原山 片岡 芳子

仏塔と紛ふ駅舎や冬うらら  
 内野 葛西 節子

赤松や富士をそびらに今朝の冬  
 木刈 蘭田 篤生

元朝のまだ明けやらす坐禅組む  
 内野 真明 克誠

＜短歌・俳句をお寄せください＞  
一人一首または一句で未発表のもの。毎月20日締め切り（必着）です。投稿は、住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記の上、秘書広報課広報広聴班まで。